

あいさつことばの方言地理学的研究

江 端 義 夫

(1981年10月1日受理)

A Dialect Geographical Study on a Greeting Expression

Yoshio EBATA

A greeting expression calls forth a response in another's heart. Generally one begins a conversation with a greeting and close it by that.

In this paper the author is going to interpret dialect distribution maps of the morning greeting expressions of Chubu District, Japan using the dialect-geographical method.

The following results were found;

1. The way of conceptualizing a greeting expression in the morning.
 - 1) There are found in many places greeting expressions that refer to walking up early in the morning.
 - 2) A simplified form of the expression heighten an universal usage in general.
 - 3) A greeting expression which means "Good morning." is rarely found in Chubu District.
 - 4) There are found greeting expressions in some places, expressing the day's weather.
 - 5) We find greeting expressions in some places, relating to one's rising in the morning.
 - 6) Greeting expressions asking the other man's behavior are rarely found.
 - 7) These ordinary order have been decided already when one utter the plural greeting expressions.
2. Honorific expressions of the greeting in the morning.

Greeting expressions contain honorifics. In the map 2, we can see the following predicates that mean honorifics.

--- gozansu, --- gozaisu, --- san, --- goisu, --- gowasu,

The field of the study of greeting expressions has barely been touched upon.

はじめに

あいさつことばの生活は、心を通わすことばの生活である。人と人との会話は、あいさつことばを以て始まり、あいさつことばを以て完結する。人の出会いと別れとの人生ドラマは、心をこめたあいさつことばの魔力に動かされることがあろう。

あいさつことばは、一面、社会規則である。また一面、個性の独創的発揮である。くり返しのきかない人生場面ごとに、それは創意に満ちている。

あいさつことばを規定する条件としては、

- ① 出会いの時間
- ② 生活場面
- ③ 話し手と聞き手との親疎関係
- ④ 両者の上下関係 (社会的関係, 待遇関係)
- ⑤ 両者の性別

⑥ 両者の年齢差

⑦ 両者の好悪の感情

⑧ 両者の負いめ勝ちめの関係 (たとえば金の貸借、物の授受などの臨時的な状況)

⑨ その場に第三者がいるか否か。

⑩ 話し手のその時の気分

⑪ 話し手の健康状態

⑫ 話し手の教養

などがある。これらの諸条件を調整して、あいさつことばの生活が営まれているのである。

“あの人は出合っても、あいさつ一つしない。”と言われるときの「あいさつ」は、「あいさつことば」の意である。それは、共同社会の顔見知り同士が交す同朋意識の確認行為である。この「あいさつ」は、特定の方言社会内で決っている、習慣的なあいさつことばによって行われることが多い。

あいさつことばを用いる私どもの、日常の言語生活は、所属する方言社会で行われる特定のあいさつことばを用いつつ、しかも独自に、個性的な表現を産み出して、その場の心のしぜんに合致した完結体を仕立てる営みである。あいさつことばを交す相手との相互作用によって形成される時間芸術である、とも言えよう。これは、特定地域社会における話し手の、普遍的な選択による流行であると共に、現時点における不易でもある。

あいさつことばについて、すでに種々の先行研究がある。柳田国男氏に『毎日の言葉』（昭和21年7月、創元社）という、先駆的な著書がある。また、藤原与一先生は、御論考「あいさつことば」の研究について」（『方言研究年報』第6巻、1963年、広島大学文学部国語研究室方言研究会）によって、あいさつことばの研究世界とその研究方法とを、具体的に開陳された（これは後に、『方言学の方法』（1977年、大修館）に再録されている）。そして『方言研究年報』第6巻には、全国39地点について、統一的な場面設定によるあいさつことばが、記述報告されている。この研究を継承して、瀬戸口俊治氏は、あいさつことばを待遇表現法の視点から討究し、「あいさつ表現の生活と待遇表現法——大隅種子島平山方言のばあい」（『比治山女子短期大学紀要』第5号、1971年）をまとめられた。さらに、あいさつことばの豊饒な世界を克明に調査された、佐藤虎男氏の「大阪船場のあいさつことば」（『学大国文』第17号、昭和48年）がある。これらの外に、神部宏泰氏の『隠岐方言の研究』（風間書房、昭和53年）や山崎敏昭氏の『京都府竹野郡丹後町間入方言のあいさつ表現法について』（『ノートルダム清心女子大学国文科紀要』第3号、1969年）がある。あいさつことばの生活を、形態本位に語彙としてとりまとめた論文「協同調査報告、広島県山県郡芸北町字八幡の挨拶語彙」（『広島女学院大学国語国文学会誌』第9号、1980年）は、あいさつことばの使用者層、使用頻度も併記されていて詳しい。また、あいさつことばを、あいさつ行動として包括的にとらえた論考（堀原泉昭氏の「あいさつの民族誌——あいさつことばの分析」大阪大学人間科学部紀要、第4号、1979年）もある。あいさつことばの討究上の視点は、巨視的なものから微視的なものまで多様であり、無限でさえある。以上のような諸研究に見る如く、あいさつことばが生活行動そのものであり、文化と歴史とを背負ったものであるため、その複合性を解明する上で、諸観点の分析とその統合とが緊要である。

そこで私は、以下において、あいさつことばのうちの「朝のあいさつことば」をとりあげる。日本の中部

地方について、統一場面設定下の質問文で臨地調査を実施し、方言事象分布図を作製する。「朝の出合いのあいさつことば」の方言事象分布図に関して、方言地理学的な考察を行いたい。諸事象の必然的な分布事象について考察することが、本小稿の目的である。

1. 朝のあいさつことばの発想法

中部地方域における朝のあいさつことばは、どのように行われているであろうか。(1)朝早く近所の人と道で出合って、どんなあいさつをしますか。(2)お早うゴワス、お早うゴイス、お早うゴザンス、と言いませんか。”という質問文によって、中部地方域9県で方言の臨地調査を行った。その結果を、発想法に注目して作図したのが、図1¹⁾である。

図1を見通すと、次下の7つの事実が指摘される。

(1) 早い目覚めを、既成事象の共有として述定する発想法のあいさつことばが、注目される。

図1では、全域に蚕の繭の形をした符号が分布する。これは、早い目覚め・出会いに注目した発想法のあいさつことばである。具体的には、朝の目覚めの早かったことを賞讃しあう心理が働いているのであろう。早く起き出して、戸外で精一杯労働することが、好ましいのである。勤労をねぎらう心持が、しぜんに窺える。健康で早起きし、仕事に出掛けた幸福を、共に祝福し合う心情が、本源にあるうか。

こうした発想のあいさつことばは、中部地方域ばかりでなく、全国的なものようである。

日本列島を南から北へと見渡してみる。九州の鹿児島県指宿郡山川町岡見ヶ水では、

○ハ^ハメ^カ。サメヤイモシタ 子^一。早くお目ざまなさいましたねえ。

○ハ^ハメ^カ。サメヤッタ 子^一。 同上

○ハ^ハガイ デヤッタ 子^一。早朝から出られましたね。(瀬戸口俊治氏『方言研究年報』第六巻、1963年)

という。早い目覚めが、端的に事実として、話題化されている。虚飾を排した直截の表現が、興味深い。

離島の隠岐島でも、早起きの事実を述べるのが、あいさつことばの発想法となっている。これが、朝のあいさつことばの古い形だといわれる。

○オキヤ^カ。カ。起きなさったか。(30、40年ばかり前)

○オキサ^カ。カ。起きなさったか。(神部宏泰氏『方言研究年報』第6巻、1963年)

路上で出合えば、すでに起床したことは明らかなら

図 1

朝のあいさつことばの発想法

- (1)朝早く近所の人と道で出会って、どんなあいさつをしますか。
 (2)お早うゴワス、お早うゴイス、お早うゴザンス、と言いませんか。

早い目覚め・出会いに注目した発想法

＊ ＊ ＊
 天候に注目した発想法

イーアンバイデス。104
 エーアンバイデゴザイマス。417
 イーアンバイデスネ。130

イーオテンキダナー。329
 ヨイオチキダスネ。1101
 イーテンキダノ。814
 エーヒマロカナ。813
 テンキダラエーノシ。302

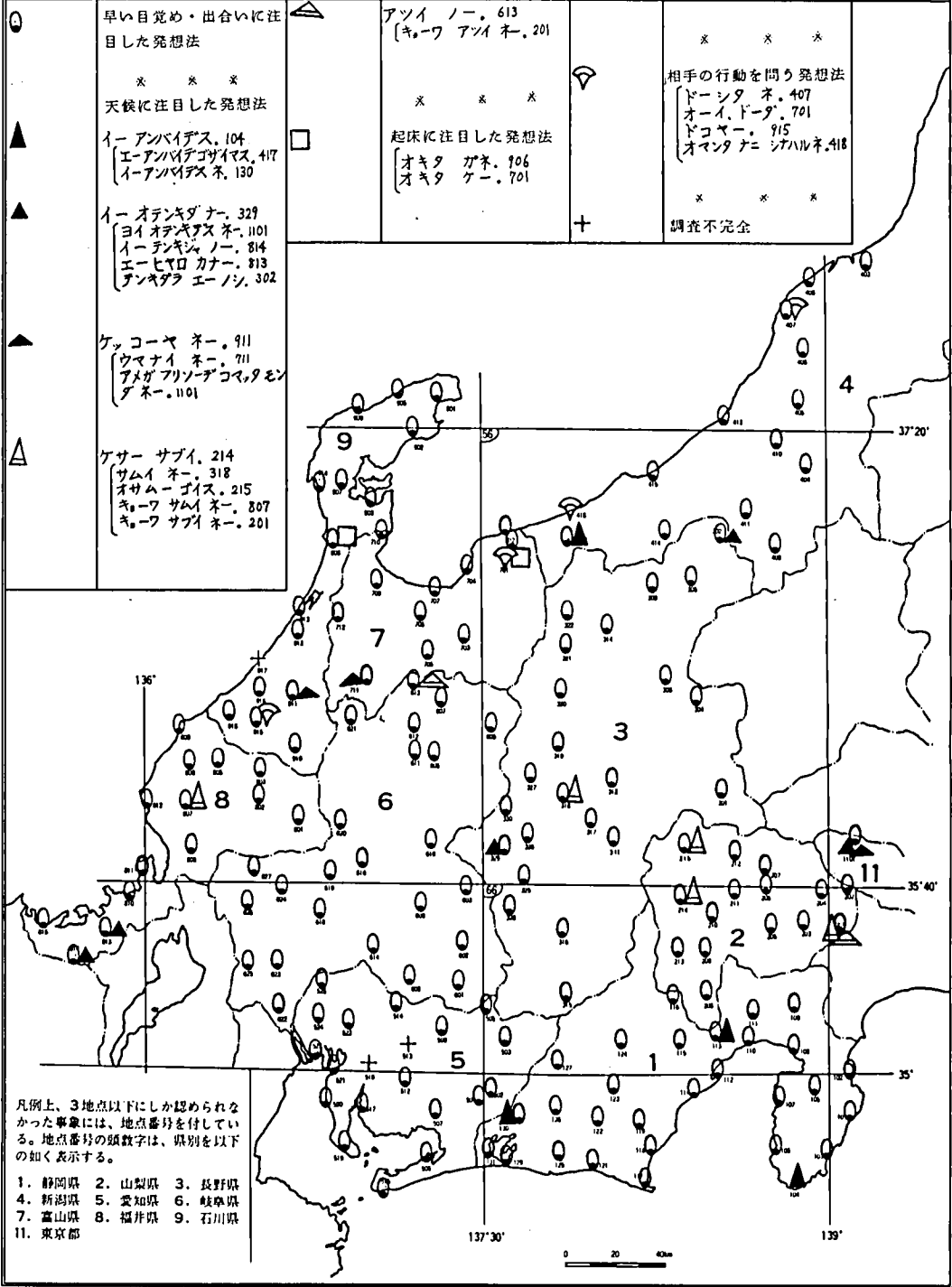
ケッコーマネ。911
 ウマナイネ。711
 アマガリソコマタモン
 グネ。1101

ケサーサブイ。214
 サムイネ。318
 オサムーゴイス。215
 キーワサムイネ。807
 キーワサブイネ。201

アツイノ。613
 キーワアツイネ。201

＊ ＊ ＊
 起床に注目した発想法
 オキタガネ。906
 オキタケ。701

＊ ＊ ＊
 相手の行動を問う発想法
 ドーシタネ。407
 オーイ、ドーダ。701
 ドコマー。915
 オマンタネシハルネ。418
 ＊ ＊ ＊
 調査不完全



凡例上、3地点以下にしから認められなかった事象には、地点番号を付している。地点番号の頭数字は、県別を以下の如く表示する。

- 1. 静岡県
- 2. 山梨県
- 3. 長野県
- 4. 新潟県
- 5. 愛知県
- 6. 岐阜県
- 7. 富山県
- 8. 福井県
- 9. 石川県
- 11. 東京都

ずであるのに、それが質問の意の文末詞「カ」または念押し of 意の「カ」を採って表現される。そこには、「既成の事態」を共有して会話を円滑に展開しようとする心理が、窺えるのである。

香川県三豊郡大野原町でも

○ハヨー オコシデス ナー。早くお出かけですね。

(中村公子氏ご教示。アクセント欠)

のように、現前の事態をすぐさま写して、表現されている。

したがって、古くは、広く全国的に、早い目覚めに着目した朝のあいさつことばが、見られたことであろう。次いで、出合いが話題となり、勤労を発想にとりこんでもいったのではあるまいか。次の例は、福山市水呑町でのばあいである。

○ハヨーカラ ヤリ^リョーテンジャ ナー。早くから
仕事しておられますね。(老女)

早い目覚めに注目した発想法のあいさつことばは、ついに、勤労をたたえ、健康であることを祝福する心情につながるようである。またそれは、早朝に仕事に向う精気を讃え、人生での繁栄を期して祝福するあいさつことばであろう。

(2) “簡略形”による朝のあいさつことばの普遍的 一般化

「早くどうどう……。」のあいさつことばが広く行われるためには、その弘通性、普遍性の高いことが必要である。地域社会の生活事実を克明に話題にとりあげたあいさつことばでは、即現場的で、一般性に乏しい。より広い地域で通用しうるためには、あいさつことばが具象性から遠ざからなければならない。たとえば、

○ケサワ エライ ハヤサー。おはようございます。
長崎県佐世保市大黒町(春野睦子氏ご教示。アクセント欠)

のように、用言である「早い」を体言化し、「早さ」と感動的に表現することは、飛躍を促す一方法である。これは、叙述性を離れ、感覚に訴えかける一般性に着くやり方である。また、次にもう一つの有力な一般化の方法がある。

図1では、早い目覚め・出合いに注目した発想法のあいさつことばが、全域に強力な存立を見せている。それらは、図2での凡例で知られるように、「オハヨー ゴザリマス」を始めとして、「オハヨーサン」まで多様である。それらのあいさつことばの文表現は、修飾部「オハヨー」を必ず含んでいる。述部は、「ゴザリマス、ゴザイマス、ゴザンス、ゴイス」など、種々の変相に富む。修飾部と述部とで、あいさつの文表現が形成されている。極端に簡略化を進めて、「オハ

ヨー。」となれば、修飾部だけで一文ができていくわけである。何が早いのかは、問わない。ただ、「早い」ことを言い出せばよいのである。実内容を省略することによって、脱現場性が高揚する。生活場面から離れ具象的な表現を避けることによって、普遍的な一般化が進む。だから、「早く目覚めた。」といては、普遍化に支障が生じるので、「早うございました。」と改める方向に進む。具体的な表現場面から遊離せしめ、抽象化を志向するのである。

このような過程を経て、中部地方域における朝のあいさつことばでは、「お早く目覚めました。」とか「お早く出合いました。」とかの具象的な発想のものは消退し、あるいは創作されないままで、より普遍的一般性の著しい「お早うございます」「お早う。」の言い方へと、発想法が趣き向ったものと考えられる。

この傾向は、共通語においても認められる。たとえば、「今日はどうどう……。」というべき日中の出合いのあいさつことばが、簡略化に向い、多くは「こんにちは。」だけになっている。かつては、「今晚は、どこへいらっしゃいますか？」などと夜のあいさつことばを交していたかもしれない。しかし今や、「こんばんは。」と単直に表現することが、共通語での一般であろう。

あいさつことばの形態の簡略化が進めば、しぜんに朝のあいさつことばの普遍的な一般化が高まる。この事実が、図1、2によって認められたわけである。

(3) 中部地方域の朝のあいさつことばには、“良い (good)朝”の如く、朝そのものを価値づける 発想の言い方は稀であろう。

図1では、“Good morning”のように、「いい朝ノ」と発想する朝のあいさつことばは、見られない。しかし、鹿児島県薩摩郡宮之城町では、

○ヨカ アサ ナー。コゲン ハヨカラ ドケ イ
ッキャヒ カ。よい朝だね。こんなに早くからど
こへ行かれますか。(親戚同士の会話)

○ヨカ アサ ナー。モヘ オキヤヒタ カ。よ
い朝ですね。もう起きられましたか。(近隣の人
同士の会話)

○ヨカ アサ ゴザシド ナー。よい朝でございま
すね。(染川喜代子氏、内村マリ子氏のご教示。
アクセント不完全)

のように行われているという。このような、「いい朝ノ」と祝福し価値表出する朝のあいさつことばは、全国的に珍しいのではなからうか。それは、九州での特色を示す発想法と言えるかもしれない。少くとも、それは、私の臨地調査した中部地方域では、聞くことの

難しかった発想法である。

(4) 天候を話題にしたあいさつことばが散見され、注目される。

三角形の符号で表したのが、天候に発想をおいたあいさつことばである。モンスーン気候の風土の中では、その日の空模様をとらえて朝のあいさつことばに仕立てることが、きわめて自然であろう。私どもは、天候への関心が強い。とくに、農林漁業という第一次産業に従事する生活においては、天候が切実な生活要件である。朝の出合いで、さまざま、天候を話題にする。その心の中には、天候に気づきながら、暮さなければならぬ必然的な生活への思いがある。その生活習慣にもついた自然な条件反射が働く、と解することができようか。第一次産業従事者にとって、天候は同業者間の最大の共通の関心事である。心を通わすあいさつことばに、共通の関心事が吐露されないはずはないであろう。

三角系の符号で表される事象には、「イー アンバイデス。」がある。これが、静岡県や新潟県下に、若干認められる。また、「キョーウ イー オテンキダナー。」などと、天気が良いことを表現したもの、あるいは「エー ヒヤロ カナー。」などと、天気を心配した表現もある。寒いとか暑いとかを表現したあいさつことばも、見える。しかし、図1では、天候を話題にした分布地点は、「早い目覚め・出合いに注目した発想法のあいさつことば」のそれよりも、はるかに少ない。それらの分布の、散見されることが重要である。四季おりおりの、寒さや暑さについての話題は、すべての人々の注目するところである。天候を話題にしたあいさつことばは、目覚めの早さなどを話題としたあいさつことばよりも、少ないけれども、潜在的に認められるわけである。したがって、それらが、全域に散見される分布となって表れている、と考えられよう。

(5) 起床の事態をとりたてたあいさつことばが、ごくわずかに見られる。

起床の事実をとらえて、それを朝の出合いのあいさつことばの話題にすることがある。図1では、石川県の1地と富山県の1地とにだけ、その分布が認められる。即ち、「オキタ カネ。」(石川県羽咋市深江町)と「オキタ ケー。」(富山県下新川郡宇奈月町音沢)とである。

朝、目が覚めて起床する。家を出て誰かと出合っあいさつを交す。これらは、日常普通の行動である。出合いより以前に、起床という事態が存する。それがあいさつことばに仕立てられている。早い目覚めを賞

讃するというような話者の価値観が、ここには表現されないのである。事態を、ただ、事実として述べるだけである。このような発想法のあいさつことばは、広く行われていても不思議ではないけれども、当域ではその分布が極めて少ない。しかも、それは、他のあいさつことばと併存のあり方でしか、存しない状況である。

(6) 相手の行動を問う発想のあいさつことばが、稀にある。

図1では、当該発想のあいさつことばに、「ドーシタネ。」(新潟県西蒲原郡岩室村大字岩室)、「オーイ ドーダ。」(富山県下新川郡宇奈月町音沢)、「ドコヤー。」(石川県小松市大杉本町)、「オマンタ ナニ シナハルネ。」(新潟県糸魚川市上刈)がある。これらは、相手の様子を見るや否や、相手の私生活の領域へ、すぐにも入っていこうとするあいさつことばである。並一通りのあいさつことばでは済まされないという相手への気づきか、表現されている。自己のあり方が、相手の行動と必然的な連関を持っているという認識の下に、かかる発想のあいさつことばが表現されるのであろう。一定の地域社会では、相手の生活に関心を示し、迷滞して生きてゆくことが期待されている。小地域社会では、助けあって生きていくことが個人的自我の確立よりも、優先すると考えられているのである。

また、相手の行動を問う発想のあいさつことばを受けて、土地人がどのような返答のあいさつことばを示すかが注目されるが、それは後の課題である。心をくだき、表現にみかきをかけたあいさつことばが、整えられることであろう。

(7) あいさつことばの併用順序には、一定の先後原則が決っている。

図1では、朝のあいさつことばの諸事象に、併存分布が少ない。わずかに20地点で、複数事象の併存が認められる。これらの全20地点には、早い目覚め・出合いに注目した発想法のあいさつことばが見られる。しかも、早い目覚め・出合いに注目した発想法のあいさつことばは、臨地調査の質問に対する応答の場で、おおむね、他のあいさつことばよりも先に表現されている。そのあいさつことばの重出には、一定の先後原則が存するようである。

大体において、以下の如く、A→B、B→C、A→Cの順序で、あいさつことばが連鎖されるようである。これは、一般原則と言えるものでもあろうか。



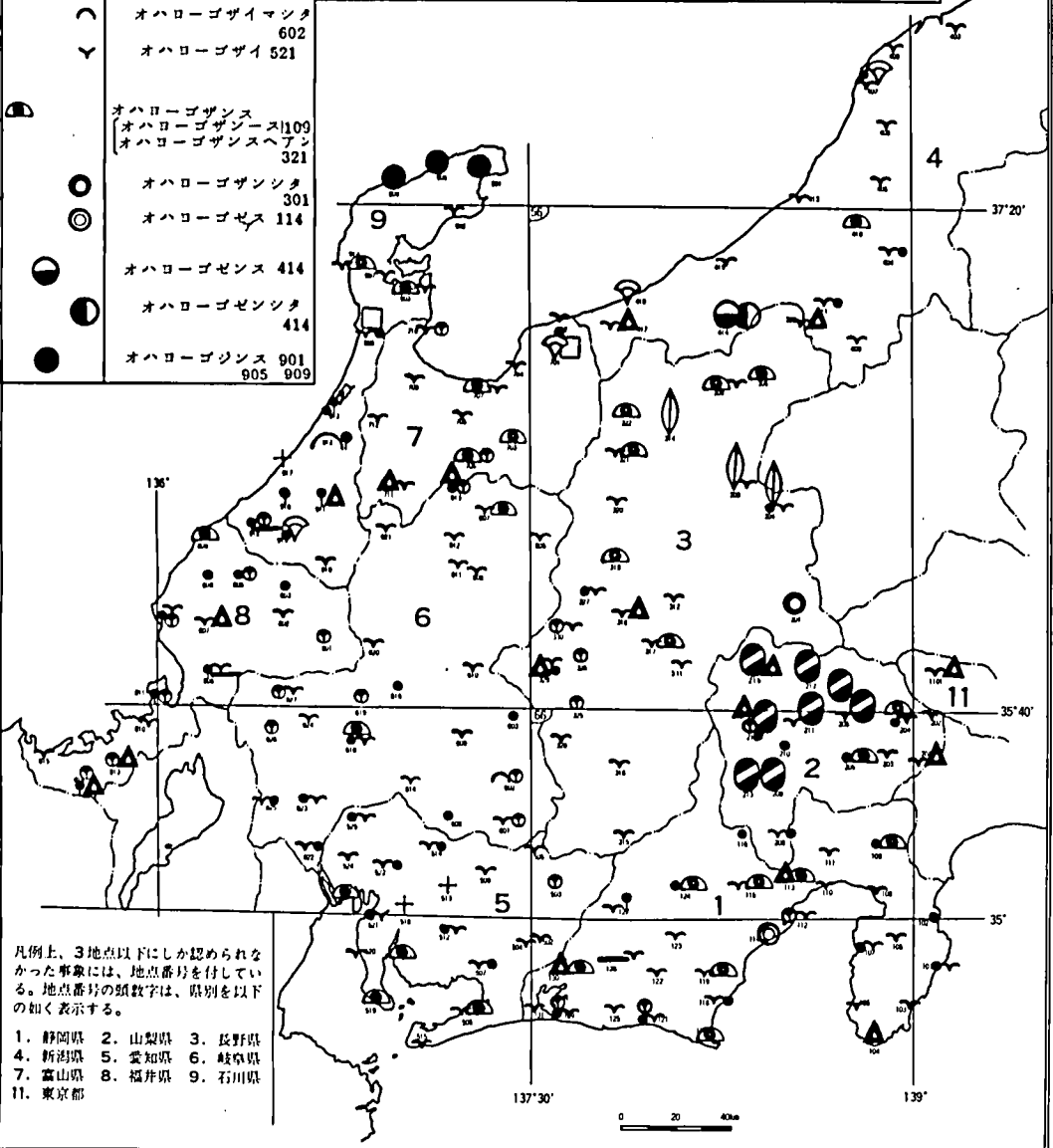
2

朝のあいさつことばの敬照法

(1)朝早く近所の人と道で出会って、どんなあいさつをしますか。

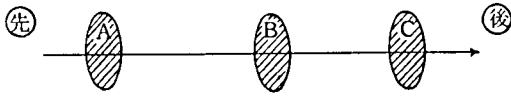
(2)お早うゴウス、お早うゴイス、お早うゴザンス、と言いませんか。

	オハローゴザリマス 126 806 918	オハローゴイス	× × × 天候に注目した言いかた × × ×
	オハローゴザイマス オハローゴザイマス 504 (オハローゴゼーマス) オハローゴダイマス 106 ハローゴザイマス 910	オハローゴウス 304 308 314	× × × 起床に注目した言いかた × × × 相手の行動に注目した言いかた × × × 調査不完全
	オハローゴザイミス 912	オハロー オハローサン	
	オハローゴザイマシタ 602	ハイ・文末詞	
	オハローゴザイ 521		



凡例上、3地点以下にしか認められなかった事象には、地点番号を付している。地点番号の頭数字は、県別を以下の如く表示する。

1. 静岡県 2. 山梨県 3. 長野県
 4. 新潟県 5. 愛知県 6. 岐阜県
 7. 富山県 8. 福井県 9. 石川県
 11. 東京都



(符牒的抽象的表現) → (具象的表現)

- A ; 早い目覚め・出会いに注目した発想法の言い方
- B ; 天候に注目した発想法の言い方
- C ; 相手の行動を問う発想法の言い方

総じて、私どもの朝のあいさつことばでは、符牒的な文表現が先行し、具象的な文表現が後行するという原則が存するのではないかと考えられる。普遍性の高い言い方、即ち、符牒的抽象的表現から始めて、しだいに、個人的な心情を交える言い方、即ち具象的表現を選び、話を楽しみながら、内実に向かっていくかと思われる。しかし、あいさつことばの論理的探究については、今後に残された課題である。

私どもの朝のあいさつことばの生活は、上述のA・B・Cを、調和させて、適切に表現する行為であるとも言える。

2. 朝のあいさつことばの敬憲法

中部地方域における朝のあいさつことばでは、朝の早い目覚め・出会いに注目した発想法の言い方が、極めて多かった。

以下には、朝のあいさつことばを、敬憲法に注目して考察する。とくに、朝の早い目覚め・出会いに着目したあいさつことばのみを、対象とする。

すべての表現は、待遇表現である。あいさつ表現には、述部の敬語的様態に、必然の敬語法が存する。質問文に即応した待遇状況下における、丁寧表現法「お早うございます」の言い方が見られる。

本項目は、敬語法そのものを求めるために準備されたのではない。朝のあいさつことばに見られる丁寧表現の諸事象を考察する、という程度に抑えて臨みたい。

(1) 「オハヨー ゴザンス」

これは、中部地方の全域に分布が認められる。「オハヨー ゴザンス。」は、「オハヨー ゴザイマス。」と併存分布を見せることが多い。しかし、「オハヨー ゴザンス。」は単独で分布することもある。それは、福井県で1地点、富山県で1地点、新潟県で1地点、長野県で3地点、愛知県で2地点、静岡県で1地点の合計9地点に認められる。

「オハヨー ゴザンス。」の「ゴザンス」は、「ゴザル」ことばに由来するものであろう。「ゴザリマス」が転じて「ゴザンス」になったことは、周知の事実であろう。「ゴザンス」には、古めかしさ(古態性)が

漂う。しかし、中部地方域での「オハヨー ゴザンス」の分布は、早急には消退しないであろうと考えられる。

(2) 「オハヨー ゴジンス」

石川県の能登の3地点に、「オハヨー ゴジンス」が分布している。中部地方の他の諸地域には、図2による限り、「ゴザリマス」が「ゴジンス」にまで変化した事象は、見られない。

「オハヨー ゴザンス。」は「オハヨー ゴジンス」の近くに分布が見られる。したがって、「～ゴザンス」を更に、一ひねりさせ、能登地方で独自に創作したものが、この「～ゴジンス」であろう。近畿のことばを受容するばかりでなく、それを地域社会で変容させて使用した一事例であるとも言える。

また、次の点が注目される。石川県下には、「オハヨー ゴザイマス。」を「オハヨー ゴザイミス。」のように、「マス」を「ミス」という地点(石川県金沢市寺町)がある。これは、[ma]から[mi]への変化である。地域内に認められる転訛音傾向と解すれば「オハヨー ゴザンス。」の「ザ」が「ジ」となって、「オハヨー ゴジンス」に転じることは、最もしぜんの理に叶っているとされよう。語中の[a]母音が[i]母音に変化する趣向が、存するかのようである。

(3) 「オハヨーサン」

「オハヨー。」と気軽に呼びかける朝のあいさつことばは、中部地方の全域で、通用の言い方とされる。しかし、接尾語の「サン」が承接して、「オハヨーサン」となった時、これには一定の分布領域が見られる。

図2では、この事象が福井県の3地点、石川県の5地点に認められる。中でも北陸地方に盛んな分布を示す事象であると言えよう。藤原与一先生の『瀬内海地方方言の方言地理学的研究』(東京大学出版会、1967年)には、「オハヨーサン」について、次のような解説が見える。

“**老年層区**では、「オハヨーサン」[ohajo: san]が東部に見られ、「オハヨーゴザイマス」[ohajo: gozai masu]が、中部以西に見られる。「オハヨー」にも「サン」をつけるといったようなことばづかいは、近畿系のものであるとできよう。その地方での、民間一般の、新しい意味に、このような「サン」の自由なつけかたがある。「サン」が近畿系のものであるとするならば、図2に見られる北陸地方に主要な分布を示す「オハヨーサン」は、近畿から北陸にかけて、同一の脈絡上に連なるものと解されよう。

(4) 「オハヨー ゴイス」

この事象は、図2によれば、山梨県に分布が認められる。山梨県地方域での「ゴイス」は、隆盛である。「ゴイス」の方言生活を若干記せば、以下の通りである。

- オツカレデ ゴイス。お疲れでございます。(老女→筆者) 山梨県東山梨郡春日井町
○ソーデ ゴイス。そうです。(老女) 山梨県北巨摩郡小淵沢町
○ソーデ ゴイス ㄱ。そうでございますねえ。(老男) 山梨県北巨摩郡高根町
○アード ゴイス カ。そうでございますか。〈かしまった時〉同上
○オハヨー ゴイス。お早うございます。同上
○オハヨー ゴシタ。お早うございました。〈早朝出合った時〉同上
○オツカレデ ゴイス。お疲れでございます。〈夜の訪問のあいさつ〉(老女) 山梨県南巨摩郡早川町

「ゴイス」は、ていねいにものを言おうとして、かしまった時に表現されるようである。「ゴイス」は、山梨県地方の全域で、広く使用されている特徴的な敬態法である。

しかし、「ゴイス」は、山梨県地方にのみ存するというものではない。図2には、その分布が見えないけれども、北陸地方にも、特に福井県地方では、「ゴイス」が認められるようである。

(5) 「オハヨー ゴワス」

動詞の「ゴワス」を用いた、ていねいな文表現の「オハヨー ゴワス」が、図2では、長野県北部の3地点に分布している。

たとえば、長野県小県郡和田村字上和田では、「ゴワス」が次のように行われている。

- ソーデ ゴワス。そうでございます。(老男)
○オツカレデ ゴワス。お疲れでございます。〈夕方
方のあいさつことば〉同上

「ゴワス」は、「ゴザイマス」から生じた「ゴザス」の子音[z]が脱落してできたものであろうか。

おわりに

本稿は、あいさつことばについての方言地理学的研究の試みであった。質問文については、場面を細かく条件づける方が、より具体的なあいさつことばを得やすかったかと考える。

あいさつことばの分布図についての解釈では、言いすぎないように心掛けた。

あいさつことばの討究は、未開拓である。あいさつ行動について、方言共同体を方言社会学的に研究することは、今後の課題であろう。

本稿では、広大なあいさつことばの研究世界の一端を扱い、考察し報告した。(1981年9月5日改稿)

<注>

- 1) その一、符号化された事象に関する被調査者の説明を掲げる。①使用者層；○オハヨーゴザイマス。《使うが、主に若い人のことば。》912，○オハヨーゴイス。《男女ともに使う。》209，○オハヨー。《男に多いことば。》507，②新古；○オハヨーゴザンス。《昔からのことば。》205，○オハヨーゴイス。《昭和に入って新しく使うようになった。》211，○オハヨーゴワス。《昔からのことば。》304，○ハヤイナーシ。《昔風のことば。》326，○オキタガネ。《子どもの時によく使った。》906，③盛稀；○オハヨーゴザリマス。《使うが今はめったに言わない。》806，○オハヨーゴザンス。《時に、言うことがある。》119，○オハヨーゴイス。《稀に用いる。》214，④品位；○オハヨーゴザリマス。《ていねいなことば。》918，○オハヨーゴザイマス。《あらたまった感じで言う。》329，○オハヨーゴザンス。《いいことば。》130，《目上へのことば。》309，⑤意義；○オハヨー。《親しみのことば。》918，○用法；○オハヨーゴジンシガケー。《相手を尊敬して言うことば。》901，○ハヤイナー。《ごく親しい人へのことば。》129，○ハヤイネ。《心やすい人へのことば。》906，⑥その他；○ハヤイノー。《土地ことば。》121，その二、符号化していない事象を掲げる。①朝のあいさつことば以外；(日中)○コンニチワ。205，404，411，○コンチワ。131，408，——(夜)○オシメァーデスカ。115，○オバンニナリマシター。408，○オバン。404，○オバンナリアンタ。418，②よそことば；○オハヨーゴザンス。《在の方のことば。》311，③副次的事象；○ソクサイソナーネ。711，○ソーデゴゼァーマス。108，○ソーデゴザインス。912，

<付記>

広島方言研究所、第9回方言研究ゼミナール(1980年8月)において口頭発表した原稿に、修訂を加えたものが本稿である。その際、諸氏より多くのご教示をいただいた。心よりあつく、お礼申し上げます。